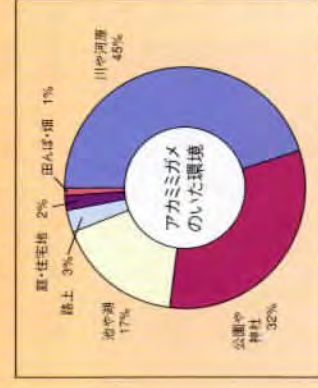


■ミシシッピアカミミガメ—人工的な公園や池だけでなく、自然の川でも定着

圧倒的に多数だったのがミシシッピアカミミガメでした(右表)。全体の6割を占めており、2位以下のクサガメ(約2割)、ニホンイシガメ(約1割)を大きく引き離しています。

この外来のカメは、63%が川や河原、池や湖、田んぼや畑で見つかっており(下グラフ)、都市部の閉鎖的な堀



や池だけではなく、開けた水系で完全に定着していると言えます。産卵している写真を送ってくださった方も

いました。もはや日本でもっとも目に付くカメとなりました。人口密度の高い太平洋ベルト地帯からの報告が多いですが、沖縄や北海道、東北地方などでも見つかっており、報告のあった46都道府県中41都道府県(89%)から報告がありました(右図)。

○ミシシッピアカミミガメ *trachemys scripta elegans*

英名: Red-eared slider

北米のミシシッピ川下流域に生息している。日本には1950年代後半から輸入され始めた。日本だけでなく世界各国に広まっており、IUCN(国際自然保護連合)の世界外来ワースト100に挙げられている。日本は、年間およそ100万個体のカメが輸入されている、世界でも有数のカメ輸入大国。



▲ミシシッピアカミミガメ

奥山保広さん撮影・山形県鶴岡市



▲カミツキガメ

金田正人さん撮影・埼玉県越生町

■カミツキガメ—無責任なペットの放逐

危険動物であるカミツキガメの報告が9府県から寄せられているのにも気になります(下図)。水底を徘徊する種で、あまり上陸しないので目立たないはずなのですが、これだけの報告があるということは、潜在的には相当の数の個体が日本に居着いていると推測できます。千葉県の印旛沼ですすでに野外で繁殖していることが確認されています。そのほかにも、キバラガメ、ミシシッピニオイガメ、ハイロチズガメ、ハナガメなどの外来種が見つかっており、無責任なペットの放逐の状況が表れています。

○カミツキガメ *Chelydra serpentina* 英名: Snapping turtle
北米原産。1960年代からペットとして輸入されている。2000年12月「動物の保護及び管理に関する法律」の改正で危険動物に指定され、飼育するには各都道府県条例に基づき届け出が必要になった。

▼カミツキガメの報告があった場所



▼ミシシッピアカミミガメの報告があった場所



▼ニホンイシガメの報告があった場所



▼スッポンの報告があった場所



▼クサガメの報告があった場所



日本ではいちばんふつうに見られたカメは、外国から来たカメでした

●解説

矢部 隆(日本カメ自然誌研究会、愛知学泉大学助教授)ここに掲載しきれなかったカメ情報は、NACS-Jのホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。 <http://www.nacsj.or.jp>



■見つけたカメの種類と割合

| | | |
|-------------|-------|--------|
| ミシシッピアカミミガメ | 3,708 | 62.15% |
| クサガメ | 1,257 | 21.07% |
| ニホンイシガメ | 590 | 9.89% |
| スッポン | 135 | 2.26% |
| カミツキガメ | 23 | 0.39% |
| ミナミイシガメ | 2 | 0.03% |
| ヤエヤマセマルハコガメ | 22 | 0.37% |
| ヤエヤマイシガメ | 21 | 0.35% |
| アオウミガメ | 15 | 0.25% |
| アオウミガメ | 0 | 0.00% |
| リュウキニオイガメ | 1 | 0.02% |
| その他(不明) | 15 | 0.25% |
| 合計 | 177 | 2.97% |
| | | 5,966 |

【その他のカメ】 ロシアイシガメ、ミシシッピニオイガメ、フロリダアカイシガメ、タイワンハシガメ、アサカリガメ、ハイロチズガメ、キハラガメ、ウシキョウ

■ニホンイシガメ—日本固有のカメはわずか1割

ニホンイシガメが確認された場所は、クサガメとほぼ重なっていますが、北海道では見つかっていません(左図)。

じつは、日本列島に生息するニホンイシガメや、クサガメ、スッポンの本来の自然分布ははっきりにありません。ニホンイシガメは、現在の流通量は少ないですが、近世には縁起物やペットとして流通していたようです。スッポンは食用として、クサガメはペットとして人間が全国に広めてしまいました。今回のアンケート調査をもとにして、必要な場所では現地調査を行ない、自然分布が人為分布かをくわしくしらべ、自然環境の保全に生かせるようにする必要があります。

○ニホンイシガメ *Mauremys japonica*

英名: Japanese pond turtle

日本固有種。甲羅の後ろのふちがギザギザになっている。

■スッポン—食用として全国に広がる

スッポンが確認された場所は、ニホンイシガメと同じで、クサガメとほぼ重なっていますが、北海道では見つかっていません(左図)。石垣島からも見つかりますが、琉球列島のものはずべて人為的に導入されたものであることがわかっています。

○スッポン *Pelodiscussinensis*

英名: Chinesesoftshellturtle

国外では、中国・朝鮮半島・シベリア東南部・台湾・ベトナム北部などに分布。甲羅は平たく柔らかな皮膚で覆われている。

■クサガメ—北海道からも報告が

クサガメは北九州・瀬戸内・関西・東海地方でよく見つかっており、首都圏からもたくさん報告があります(左図)。このカメは、戦後、「ゼニガメ」という商品名(本来のゼニガメはニホンイシガメの幼体)で養殖されたものがペットとして大量に流通しています。その中から野外に放逐されたものやその子孫も、都市近郊を中心として多いはずです。北海道で見つかった個体は明らかに移入です。

○クサガメ *Chinemys reevesii*

英名: Reeves'pond turtle (Chinesethree-keeledpondturtle)
中国・朝鮮半島・台湾にも分布している。



▶ニホンイシガメ 石神井公園野鳥と自然の会さん撮影・東京都馬区



▶スッポン 作部宏行、有理さん撮影・東京都杉並区



▶クサガメ 奥山保広さん撮影・山形県鶴岡市